

# キリスト教化とローカリティの連続性／不連続性

## アマゾン民族学と言語人類学の接合にむけて

金子亜美 (宇都宮大学)

キリスト教化を通じた地域社会の変容をいかにとらえるか。この問いに対しては、従来二通りの立場から議論がなされてきた。第一に、キリスト教が地域社会にもたらす文化の断絶、すなわち「不連続性」を強調する立場。第二に、キリスト教化以降にもなお存続する地域固有の「連続性」を見出そうとする立場である。構造主義の系譜を継ぐアマゾン民族学は後者の立場をとることが多い。そこでは例えば、洗礼といった一見キリスト教的な行為や聖書に関する語りさえ、現地に固有の関係性の様式から解釈される (cf. Fausto 2007; Vilaça 2012)。この立場には二つの問題が指摘されている。第一に、分析されるデータの扱いが粗雑である点 (行為や語り自体の民族誌的具体性の欠如、データの地理的・時代的跳躍、歴史の軽視等 cf. Wilde 2016)。第二に、ローカリティの連続性が強調される一方で、キリスト教自体とそれがもたらした社会変容の動態が後景化される点 (cf. Schieffelin 2014)。

本発表は、アマゾン民族学の上記二つの問題を、言語人類学の方法によって解決することを目指すものである。17-18 世紀イエズス会布教区での宣教を受けてキリスト教化した歴史をもつ南米のチキトス地方を扱いつつ、次の二つの作業を行う。第一に、同地に関する da Silva (2015) の研究も含まれるアマゾン民族学の先行研究が、出处不明の「神話」の翻訳を用いてその意味内容から抽出されうる構造を分析してきたのに対し、本発表では発話の意味内容にとどまらない側面を民族誌的状況のなかで精査する重要性を、「説教 *sermón*」と呼ばれる儀礼的発話の言語人類学的分析から示す。第二に、キリスト教化前後におけるローカリティの連続性／不連続性の問題に関し、イエズス会布教区地域により即した見方を提示する。

「説教 *sermón*」は教会暦の祝祭日に行われる発話である。以下三点に関わる分析を通し、それがキリスト教的であるか現地的であるかを見分けることの難しい、中間的な特徴を備えたものであることを示す。

1. 意味内容：説教はキリスト教の聖人を讃え、聖書の規範を説くものである。キリスト生誕や受難、復活といった聖書の出来事が、時に聖書の直接引用を通して語られる。先行研究が構造主義的解釈を加えるのはもっぱらこういった意味的側面である。

2. 使用言語 (変種)：説教は現地語チキタノ語の独特な抑揚で発話される。今日この言語は先住民文化を代表するものの一つとしてしばしば語られるが、実はこの言語自体、イエズス会時代に「神を語るための言

語」として制定され、数々の改変を受けたものなのである。また 2016 年の研究大会で詳しく紹介したように、説教を女性が担当するときにさえチキタノ語の男性変種が用いられるが、それもイエズス会による女性変種の周縁化の帰結であることが史料から見て取れる。

3. 受信者：説教はある定型句から始まるが、そこでは説教の受信者が *tsaica* という語彙で指標されている。この語は植民地時代のチキタノ語辞書によれば「たくさんの息子たち」という意味しか持たないが、今日では洗礼を受けたあとの「キリスト教徒たち *macristianuca*」、すなわち「(神の) 息子たち」という意味を帯びている。他方でこの語は、*tsauca* と対を為す語でもある。これは人がそこから逃れるべきとされる「野蛮人 *bárbaros*」たる状態を意味し、また「虫 *bichos*」とも同等視される。つまり当地に固有の人格理解の様式の中に、「キリスト教徒」という存在は確かに根を下ろしてもいるのである (cf. da Silva 2015)。

以上を踏まえ結論を述べる。第一に、言語使用への介入を重んじるキリスト教宣教およびそれに伴う社会変容を研究する上で、南米の低地社会をも主要な研究対象の一つとしてきた言語人類学の知見を援用することは有益である。第二に、キリスト教化前後の連続性と不連続性という問題については、その複雑な様相を民族誌的文脈のなかで緻密に精査する必要があると主張する。植民地政策を通じて先住民社会の長期的・全面的な再編成を経験したイエズス会布教区地域に関して言えば、キリスト教化という不連続性の上に新たに受胎した連続性の仔細を紐解いていく作業が求められるだろう。

Fausto, Carlos 2007 If God Were a Jaguar: Cannibalism and Christianity among the Guarani (16th-20th Centuries), in Fausto & Heckenberger (eds.) *Time and Memory in Indigenous Amazonia*. Florida University Press.

Schieffelin, Bambi 2014 Christianizing Language and the Dis-placement of Culture in Bosavi, Papua New Guinea, *Current Anthropology*, 55(10): S226-237.

da Silva, Verone Cristina 2015 Carnaval, alegria dos imortais: ritual, pessoa e cosmologia entre os Chiquitano no Brasil. Tese apresentada à Universidade de São Paulo.

Vilaça, Aparecida 2013 Reconfiguring Humanity in Amazonia: Christianity and Change, in Boddy & Lambek (eds.) *A Companion to the Anthropology of Religion*. Wiley Blackwell.

Wilde, Guillermo 2016 *Religión y poder en las misiones de guaraníes*. SB.

キーワード：キリスト教化、社会変容、アマゾン民族学、言語人類学、イエズス会布教区